

# 羅針盤Ⅱ

高校生のための本42冊



# もくじ

はじめに..... 2

つくる..... 3

つなぐ..... 5

まもる..... 7

であう..... 9

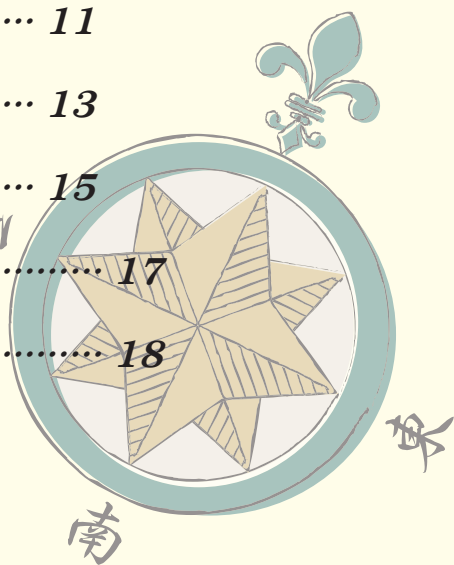
しるす..... 11

信じる..... 13

ひらく..... 15

図書館を使おう..... 17

時代別索引..... 18



# はじめに

ここに42冊の本を紹介する。どの本も、過去から現在まで、この国でその時代を生き抜いた人々の姿を語っている。小説もある。ノンフィクションもある。どれもが読みごたえのある本だ。

本の世界にどっぷりつかって、連綿と受け継がれてきた人々の知恵と勇気を、汲み取ってほしい。

本は豊かな世界に私たちを誘う。生きることや社会について深く考えることもできる。

この中の1冊をきっかけに、大きな本の海への航海が始まることを願っている。よき航海を祈る。

## 読みたい本の探し方

- 目次のテーマを見て、ピンときたページを開いてみる。
- 開いたら、紹介文や表紙画像を見て、読みたい本を探す。
- リンクマークでもっと読みたい本を探す。
- 読みたい時代があったら、おしまいの時代別索引を見る。



# つくる



大仏をつくる、道をつくる、生活をつくる、人間は飽くことなく何かをつくり続けてきた。昔も今も。



## 国銅 上・下

帯木蓬生著 新潮社(新潮文庫)

978-4-10-128816-1, 978-4-10-128817-8

国人は、暗い坑道をとおって梯子<sup>はしご</sup>をおりていく。冷たい水にぬれながら、たがねをふるって、岩をはがす。重い岩を背負<sup>かえき</sup>って外に運び出し、精錬して銅を作る。このつらい課役<sup>かえき</sup>も危険への恐れも空腹も仲間がいるから耐えられた。

大仏造立<sup>ぞうりゅう</sup>の詔<sup>みことり</sup>が発せられ、国人は都行きを命ぜられ、大勢の人たちと大仏建立に一途に取り組んでいく。



## 榆家の人びと 第一部・第二部・第三部

北杜夫著 新潮社(新潮文庫)

978-4-10-113157-3, 978-4-10-113158-0, 978-4-10-113159-7

東北の村に生まれた金沢甚作は、榆基一郎と名前を変え、東京青山にそびえ立つ帝国脳病院の院長になった。彼は決して怒らず、ネコにさえも愛想良い。自慢のヒゲにチックを塗込み、粉白粉<sup>こなしろい</sup>を顔にすりつけ、香水をふったこだわりの外貌は威厳もある。天才的なプロデュース能力を発揮し、一代で大病院をつくった基一郎と一族の隆盛と没落の物語。

## 古事記 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典

角川書店編 角川学芸出版(角川ソフィア文庫) 978-4-04-357410-0

いざなきのみこと いざなみのみこと あめのぬほこ  
伊耶那岐命と伊耶那美命は、天沼矛で海水をコオロコオロと  
かき鳴らした。引き上げた沼矛からしたたり落ちた潮で、淤能碁  
呂嶋ができ、二神はそこへ降りて行った。雄大な国造りの物語が  
ここに始まる。



## 百姓たちの江戸時代

渡辺尚志著 筑摩書房(ちくまプリマー新書) 978-4-480-68810-1

信濃国の坂本家の文書を見ると、農業だけでなく、商売もして  
いたことがわかる。米、味噌、木綿、笠、落ち葉などたくさんの  
品を売り、家族で神社参りや祭、歌舞伎見物も楽しんでいる。自  
らの工夫で暮らしを作る庶民が大勢いたのだ。



## 肥後の石工

今西祐行作 講談社(講談社文庫) 978-4-06-138003-5

鹿児島の甲突川にかかる美しいめがね橋を築いたのは、肥後の  
石工たちだ。石工頭の岩永三五郎は、どの石も橋全体の重みを支  
えるように組んだ。中央の一つの石をはすと、橋は完全に崩れ  
る。すなわち「人をおとすための橋」を架けたのだ。

➡ 薩摩 『故郷忘じがたく候』 p8



## 凍

沢木耕太郎著 新潮社(新潮文庫) 978-4-10-123517-2

標高7,952m。ヒマラヤのギャチュンカン北壁。ここに美しい  
一本のルートをつくりたい。山野井泰史と妙子は、60度以上の  
急壁を登った。登頂後、雪の降り続く中でビバークしているとこ  
だった。上で凄まじい音がした。音は地響きと共に近づいてきた。

➡ 雪 『八甲田山死の彷徨』 p8



# つなぐ



目の前の人とは、すぐに手をつなぐことができる。  
本を通せば、過去の人とも手をつなぐことができる。



➡ 宗教 『天平の薨』 p13

## 沈黙

遠藤周作著 新潮社(新潮文庫)  
978-4-10-112315-8

日本でキリスト教を広めていた宣教師が教えを棄てた。この報告はるかローマ教会にもたらされた。ロドリゴたち3人の若い宣教師は、その事実を確認し、布教を続けるため、日本に密航した。船が着いたのは、トモギという漁村。初めて会った老人は、宣教師たちに十字を切った。厳しい迫害に孤立している信徒を探し出し、自分が来たことを伝えようとロドリゴは思った。



## 新古今和歌集 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典

小林大輔編 角川学芸出版(角川ソフィア文庫)  
978-4-04-357421-6

かささぎ  
鵲の渡せる橋に置く霜の白きを見れば夜ぞふけ  
にける 大伴家持  
駒とめて袖うち払ふ陰もなし佐野のわたりの雪の  
夕暮れ 藤原定家

冬の天の川と夕暮れの雪野原を歌った和歌。『新古今和歌集』に収められている2首の間には、400年の時が流れている。『新古今和歌集』は編纂にあたり、古代からのあらゆる和歌から選んだので、冬の歌の中に、万葉と鎌倉時代の歌人が肩を並べているのだ。

## 紀ノ川

有吉佐和子著 新潮社(新潮文庫) 978-4-10-113201-3

紀ノ川を五艘の舟が下っていく。紀<sup>きもと</sup>本家の娘、花を乗せた華やかな花嫁行列である。祖母の豊乃は孫の花を慈しみ、女に必要な教養も作法も身に着けさせた。花も家を守り、盛り立てる己が役目を覚悟し、嫁いでいく。女が手渡していく家の文化。



## 君たちはどう生きるか

吉野源三郎著 岩波書店(岩波文庫) 978-4-00-331581-1

コペル君は、どんな物も自分の所に届くまで、大勢の人が繋がっていることを発見した。例えば粉ミルク。牛、牛の世話をする人、工場で働く人、ミルク缶を運ぶ人…。コペル君はこれを「人間分子の関係、あみ目の法則」と名付けてみた。



## 等伯 上・下

安部龍太郎著 日本経済新聞出版社 978-4-532-17113-1, 978-4-532-17114-8

郷里を追われる旅の途上、病んだ妻が我が子を抱いて寝ている。等伯は目をみはった。母子の姿を見て、描き悩んでいた鬼子母神<sup>きしもじん</sup>の絵に新しい着想が湧いたのだ。夢中で筆を走らせる。長谷川等伯の絵は当時も長い年月を経た現在も見る者を誘う。



## 6枚の壁新聞 石巻日日新聞・東日本大震災後7日間の記録

石巻日日新聞社編 角川マガジンス(角川SSC新書) 978-4-04-731553-2

地震から一晩明けた。黒い水、流されてきたガレキ、焼けた町並み。近江社長は新聞社の前を通る人へ声をかけ、生の正確な情報を集めた。それをつなぎ合わせ、被災者に確実に届けるのだ。紙に油性ペンで『石巻日日新聞・号外』と記した。



# まもる



まもりたいものは何だろう。大切なものはたくさんあるけれど、本当にまもりたいもの、それが見つからない。



## か えん 火怨 北の耀星アテルイ 上・下

高橋克彦著 講談社(講談社文庫)

978-4-06-273528-5, 978-4-06-273529-2

みちのく えみし  
陸奥の蝦夷たちは、朝廷の横暴に耐えかね、ついに一つにまとまった。阿弖流為<sup>アテルイ</sup>は、各地の長の中心になり、何倍もの数の敵に挑んだ。騎馬兵で奇襲する。川を渡る敵へ向かって数多くの太い木を流す。地の利を生かし、策を用いて何度も敵を退けていく。この戦いは蝦夷を人と思わない朝廷に対する戦。蝦夷の心を守るための戦である。8世紀末の誇り高い蝦夷たちを勇壮に描いた物語。



## 水木しげるの娘に語るお父さんの戦記

水木しげる著 河出書房新社(河出文庫)

978-4-309-47281-2

機関銃と手榴弾の音。味方はいない。逃げ道は敵が押さえている。お父さんは渦の巻く海に飛び込んだ。黒い海に吸い込まれ、銃と弾薬を捨てて、やつの思いで岩にはいあがった。断崖を上っては下り、ひたすら逃げる。崖から見た海は穏やかで、なんで人間だけがのた打ち回らねばならないのかと思った。終戦間近なラバウルでの出来事。



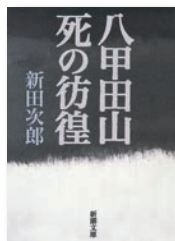
戦争

『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』 p10

## 八甲田山死の彷徨

新田次郎著 新潮社(新潮文庫) 978-4-10-112214-4

明治35年、青森と弘前の聯隊が、雪の八甲田山で徒歩による軍事教練を行った。弘前聯隊の徳島大尉は、地元の案内人を立て、隊員たちには雪中行軍に関する研究課題を与えた。研究の成果は翌日の行軍に生かされ、猛吹雪を越え帰還するが…。



## 山椒大夫 「山椒大夫・高瀬舟 他四篇」より

森鷗外作 岩波書店(岩波文庫) 978-4-00-310057-8

「お前一人でする事を、わたしといっしょにするつもりでしておくれ。」安寿は、弟の厨子王にそう言うと、逃げていく道を教えた。山椒大夫に買われて、働かされてきた姉弟はここで別れた。弟は山を駆け下り、姉は弟の姿を見送った。

➡ 姉弟 『肥後の石工』 p4



## 故郷忘じがたく候 新装版

司馬遼太郎著 文藝春秋(文春文庫) 978-4-16-766314-8

朝鮮の役で捕えられた陶磁の工人たちは、薩摩で独自の村を作り、故郷伝来の作陶を守ってきた。400年を経た今も代々沈寿官を名乗る。十四代沈寿官は、若き日に父に言われた言葉を覚えている。「息子を、ちゃん屋にせえや」

➡ 故郷 『コンニャク屋漂流記』 p12



## ユタとふしぎな仲間たち

三浦哲郎著 新潮社(新潮文庫) 978-4-10-113507-6

東京から湯ノ花村に引っ越してきたユタはいつも一人。そんなユタに寅吉じいさんは、座敷わらしに遊んでもらいなと言う。座敷わらしに会うことは人に言ってはだめ。ユタはじいさんの忠告を守り、一人で旅館の離れに泊まった。



# であう



誰かとであう。ワクワクする。ドキドキする。いやだなあと思う。相手も同じように思っているかも。



➡ ザシキワラシ  
『ユタとふしぎな仲間たち』 p8

## 新版 遠野物語 付・遠野物語拾遺

柳田国男著 角川学芸出版(角川ソフィア文庫)  
978-4-04-308320-6

ある日、家の廊下でザシキワラシとばったり会った娘。馬を淵に引き込もうとしたところ、逆に引きずられて村中の人に見つかってしまった河童。岩手県遠野地方の山村では、人々は神や妖怪と出会い、共にいた。「願はくはこれを語りて平地人を戦慄せしめよ。」と、柳田国男は聞き取った話を世に送り出す。本書は日本民俗学研究の先駆けとなる。



➡ 笛 『天狗童子』 p14

ふうじん ひしょう

## 風神秘抄 上・下

荻原規子著 佐竹美保絵 徳間書店(トクマノベルズEdge)  
978-4-19-850885-2, 978-4-19-850886-9

河原で少女が舞い始めた。澄んだ高い声が鈴のように響き、見物人が静まりかえる。舞を見ていた草十郎は自分も笛を吹き鳴らしたいと思った。横笛を口にあて、無心のまま吹くと、笛の音は歌と舞に共振した。天が開き、光る花びらのようなものが少女の上に降りそそぐ。

異能の力を持つ少女と草十郎が出会い、求めあう。武者が力を持ち始めた時代の物語。

## それでも、日本人は「戦争」を選んだ

加藤陽子著 朝日出版社 978-4-255-00485-3

19世紀、日本と清国は欧米列強の圧力を受ける。日本は法整備によって、清国は軍備拡充によって変わろうとする。清国の変化を見た日本ではどんな動きが起こったのか。本書は加藤先生と中高生たちの問答による講義の形で書かれている。



## ジョン万次郎 海を渡ったサムライ魂

マーギー・ブロイス著 金原瑞人訳 集英社 978-4-08-773477-5

万次郎の乗った船は嵐に難破し、無人島に漂着。食べものはアホウドリと卵だけ。それもなくなった。ある日、小舟が見えた。万次郎は海に飛び込み、夢中で泳いだ。助けを求めると、海のように青い目がこちらを見た。

➡ 漁師 『苦海浄土』 p12



はやぶさわけ

## 隼別王子の叛乱

田辺聖子著 中央公論新社(中公文庫) 978-4-12-202131-0

隼別王子が大王の使者として女鳥<sup>めどり</sup>の姫のもとにやってきたとき、姫は一目で王子を好きになった。大王のお召しに応じないと姫が答えると、王子は驚いたが、黙って互いの気持ちを確かめ合った。戦、逃走、陰謀、愛をめぐる絢爛たる物語。

➡ 古事記 『古事記』 p4



## 鬼の橋

伊藤遊作 太田大八画 福音館書店(福音館文庫) 978-4-8340-2739-6

おの たかむら  
小野 篁 は五条橋にやってきた。父に行くなと言われた井戸に行くために。重苦しい気持ちを橋にぶつけ、欄干をけとばした。そのとたん、橋の下から少女が飛び出てきた。「なにをするのよ!」少女はどなった。橋にあやまれ、というのだ。



# しるす



しるした人がいて、読む人がいる。しるされたものは、過去からの手紙、現在へのメッセージ。



## 関東大震災

吉村昭著 文藝春秋(文春文庫)

978-4-16-716941-1

大正12年9月1日11時58分44秒。東大地震学教室の地震計の針は、微動が始まった直後、記録紙の外に飛び出し破損した。大地が激しく波打つ。マグニチュード7.9の地震は、東京府の家屋16,684戸を全壊させ、火の手が市内のあちこちから上がった。

資本主義化と社会運動の高まりという当時の社会情勢も踏まえ、数多くの文献と体験者の話をもとに、震災下の人々の状況を詳細に書き記す。



## つきの うらそうしょうくじのおきがき 月ノ浦惣庄公事置書

岩井三四二著 文藝春秋(文春文庫)

978-4-16-767982-8

琵琶湖畔の月ノ浦では、村人が自治的な組織を作って暮らしている。田畑を耕し、回船業を営み、領主に年貢を納め、何とか飢えずにやってきた。ところが突然隣村の高浦が月ノ浦の土地の一部を自分たちのものと訴えた。この裁判に勝つには、証拠の書類が必要だ。寺には400年前からの文書が揃っているのに、月ノ浦は裁判に負けてしまった。なぜだ？ 村人の苦闘が始まる。



庶民の知恵

『百姓たちの江戸時代』 p4

## 絵画史料で歴史を読む 増補

黒田日出男著 筑摩書房(ちくま学芸文庫) 978-4-480-09122-2

日本には近代以前の絵巻、肖像画、屏風絵、出版物の挿絵など大量の絵画史料がある。それらの絵は写実ではなく、一定の約束事(コード)で描かれている。絵画史料を横断的に研究していくと、歴史をひっくり返す発見さえある。



## 或る「小倉日記」伝

松本清張著 角川書店(角川文庫) 978-4-04-122701-5

明治32年、小倉に赴任した森鷗外は日記を記しているのだが、それが失われて久しい。40年後、小倉在住の一青年が、わずかな伝手や情報を頼りに、鷗外の足跡をたどり、記録していく。彼は命を懸けて調査に没頭した。

➡ 森鷗外 『山椒大夫』 p8



## コンニャク屋漂流記

星野博美著 文藝春秋 978-4-16-374260-1

晩年、祖父は書くことに没頭していた。それは「コンニャク屋」という不思議な屋号を持つわが家の歴史だった。千葉の岩和田で漁師をしていたわが家がなぜコンニャクなのか。私は祖父の残した手記を頼りに、一族のルーツを探し始めた。

➡ 家族の歴史 『紀ノ川』 p6



しるす

く がいじょうど

## 苦海浄土 わが水俣病 新装版

石牟礼道子著 講談社(講談社文庫) 978-4-06-274815-5

豊穡の海、不知火海沿岸に初めて水俣病患者が出たのは昭和28年。夫婦で漁をしていた妻は、全身を痙攣させて「海の上はほんによかった。」という。姉を病で失った少年は病院を拒否し続けた。この地で育った著者が患者の魂の声を記す。



# 信じる

信じる、信じたい、信じられない、  
あなたの信じるはどれくらい？



## 天平の夢

井上 靖



→ 外国との出会い  
『ジョン万次郎』 p10

## 天平の夢

井上靖著 新潮社(新潮文庫)

978-4-10-106311-9

若き僧、普照と栄叡は、伝戒の師を日本に招くという使命を持って唐へ渡った。唐土を踏んで10年、2人は揚州で高僧鑒真に会った。話を聞いた鑒真は、日本に渡る者はいないかと弟子たちに尋ねた。答える者は誰もいなかった。すると鑒真は言った。「お前たちが行かないなら私が行くことにしよう」

異国との往来が困難な時代、己の役割を受け容れて生きた僧の物語。



## 一〇〇年前の女の子

船曳由美著 講談社

978-4-06-216233-3

寺崎ティ。明治42年、栃木県の高松村生まれ。ティを育ててくれたのはヤスおばあさんだ。「お月様は丸いものが好きなんだ。だから、今日の団子はとくにまん丸く作るんだよ。」と、十五夜のことを教えてくれた。お月様が上がると、おばあさんにならって子供たちは拍手を打った。ティの鮮やかな記憶から、四季折々の昔の子供の姿が目に見えてくる。

## お伽草紙

太宰治著 新潮社(新潮文庫) 978-4-10-100607-9

背負った薪に火をつけられる。背中はやけどにトウガラシを塗られる。泥船に寄せられて、水に沈められる。「カチカチ山」のタヌキは、どうしてここまでうかうかとウサギを信じてしまったのか? 作家が自在に読み解く昔話の謎。



## ちょうざんふたり 彫残二人

植松三十里著 中央公論新社 978-4-12-003976-8

子平<sup>しへい</sup>とお槨<sup>はれん</sup>は、墨を塗った版木に半紙を乗せ、馬連でこすった。刷り上がると、きっちりと折り目をつける。『海国兵談』38部が完成。1冊1冊が愛おしい。幕府の禁制を破り、命がけで己の思想を世に問うた林子平と同志の物語。



## てんぐ どうじ 天狗童子

佐藤さとる作 村上豊絵 講談社(講談社文庫) 978-4-06-277304-1

「ごめん」腹に響く声が出て与平の小屋に突然、大天狗が入ってきた。小さなカラス天狗に笛を仕込んでくれというのだ。天狗に見込まれたばっかりに、山でのんびり笛を吹いていた与平は、天下の争いに巻き込まれ…。

➡ 天狗 『新版 遠野物語』 p9



## 南島紀行

斎藤たま作 杉田徹写真 福音館書店(福音館文庫) 978-4-8340-0592-9

家の神様を二の次にして、他の地域の神様を拝んでいたの、ハブにかまれてしまったゆきづるさん。「ハブは神さまの御使えだ」奄美のおばあさんたちは、いきなりやってきた私に、島の言葉で日々の生活のことを語ってくれた。



# ひらく



新しい時代をひらくって、カッコいい。  
小さなとびらでいい。自分でもひらいてみたい。



## 天地明察 上・下

沖方丁著 角川書店(角川文庫)  
978-4-04-100318-3, 978-4-04-100292-6

渋川<sup>はるみ</sup>春海は江戸城内で囲碁を教える「碁打ち衆」の家に生まれた。だが、春海が熱中できるのは算術や星の観測。素直に碁の道に進めない。ある時、老中酒井<sup>ただきよ</sup>忠清より重大な任務を任される。「北極星を見て参れ」日本中を巡り、各地で天体観測をして来いと言うのだ。江戸の天文学者、渋川春海の人生を賭した挑戦が今、始まる。



## 物語による日本の歴史

石母田正、武者小路穰著 筑摩書房(ちくま学芸文庫)  
978-4-480-09467-4

源<sup>ためとも</sup>為朝が守っている門に敵がせめてきた。為朝は20cmもある矢じりをつけた太い矢を射た。その矢は先頭の武者の胸をまっすぐに射通す。平安末期の保元の乱を描いた『保元物語』には、勇ましい武士たちが登場する。武士の時代の幕開けだ。

『源氏物語』『今昔物語集』『平家物語』、昔の優れた美しい物語を味わいながら、その時代を見通すこともできる。

➡ 源氏 『風神秘抄』 p9

## 西行花伝

辻邦生著 新潮社(新潮文庫) 978-4-10-106810-7

現世は浮島。武力も権能も浮島の中での一喜一憂にすぎない。白梅の香り、みどりの葛城山、紀ノ川の流れ、これら山川草木は、現世を超えた場所にある。その世界に飛び出し、歌に刻もう。佐藤義清は23歳で出家し、西行と名乗る。

➡ 和歌 『新古今和歌集』 p5



## 見仏記

いとうせいこう、みうらじゅん著 角川書店(角川文庫) 978-4-04-184602-5

興福寺こうふくじの四天王はハリウッドスター系的美男子だ。ファッションセンスもいい。口から阿弥陀仏が現れている空也上人、今ならラッパーといったところか。極楽浄土からやってきた仏像たちはお堂でコンサートを開き、人々の心をガシッとつかむ。



## 地獄変「地獄変・偷盗」ちゅうとうより

芥川龍之介著 新潮社(新潮文庫) 978-4-10-102502-5

本朝第一の絵師、良秀よしひでは大殿様から、地獄変の屏風を描けと申しつけられた。地獄を再現せんと、弟子を鎖で縛ったり、怪鳥に襲わせたりしたが、一つだけ描けないものがある。それを描くには地獄を見なくてはならないのだ。

➡ 絵画 『絵画史料で歴史を読む』 p12



## 英国人写真家の見た明治日本 この世の楽園・日本

ハーバート・G・ポンティング著

長岡祥三訳 講談社(講談社学術文庫) 978-4-06-159710-5

明治期、海外から多くの人々が来日した。その一人、写真家のポンティングも機材を抱えて各地を回った。急流に竿をさすたくましい船頭、工房で仕事に励む生真面目な職人たち、赤ん坊を背負った素直な女の子。著者が撮った写真は、100年後の私たちをも驚かせる。



# 図書館をしよう



この冊子で紹介した本を手に入れるには、まず、学校の図書館へ行ってみよう。

また、東京都内には、区市町村立図書館が400館近くあり、簡単な手続きで、無料で本を借りることができる。棚に探している本が見当たらないときは、予約やリクエストをすることもできる。遠慮しないで、図書館の人に尋ねよう。インターネットで、蔵書の検索ができる図書館も多い。

学校図書館や公立図書館を、大いに活用しよう。

購入して長く愛読できるように、この冊子では、文庫や新書を多く紹介している。

東京都立多摩図書館では、中学生・高校生に対するサービスを行っている。

東京都立図書館のホームページにも「青少年のページ」を設けて、中高生の調べものに役立つ情報を載せている。気軽に利用してほしい。

## 東京都立多摩図書館

〒190-8543 立川市錦町6-3-1

電話 042-524-6428 (児童青少年資料係直通)

## 東京都立図書館ホームページ

<http://www.library.metro.tokyo.jp/>

青少年のページ

都立図書館 青少年

検索



# 時代別索引

## 神話の時代

- 古事記……P4
- 隼別王子の叛乱……P10

## 奈良～平安時代

- 国銅……P3
- 天平の薨……P13
- 火怨……P7

## 平安～鎌倉時代

- 鬼の橋……P10
- 山椒大夫……P8
- 西行花伝……P16
- 風神秘抄……P9

## 室町～戦国時代

- 月ノ浦惣庄公事置書……P11
- 天狗童子……P14
- 等伯……P6

## 江戸時代

- 沈黙……P5
- 天地明察……P15
- 彫残二人……P14
- 肥後の石工……P4
- ジョン万次郎……P10

## 明治～大正時代

- 紀ノ川……P6
- 八甲田山死の彷徨……P8
- 英国人写真家の見た明治日本……P16
- 一〇〇年前の女の子……P13
- 榆家の人びと……P3
- 関東大震災……P11

## 昭和時代

- 或る「小倉日記」伝……P12
- 水木しげるの  
娘に語るお父さんの戦記……P7
- 苦海浄土……P12
- ユタとふしぎな仲間たち……P8
- 南島紀行……P14

## 平成

- 凍……P4
- 6枚の壁新聞……P6

- 物語による日本の歴史……P15
- 見仏記……P16

- 地獄変……P16
- 新古今和歌集……P5
- 絵画史料で歴史を読む……P12

- お伽草紙……P14
- 故郷忘じがたく候……P8

- 百姓たちの江戸時代……P4

- コンニャク屋漂流記  
……P12

- それでも、日本人は  
「戦争」を選んだ  
……P10

- 新版 遠野物語……P9

- 君たちはどう生きるか  
……P6



東京都子供読書活動推進資料

登録番号 (26) 3

## 羅針盤Ⅱ 高校生のための本42冊

平成24年12月20日発行

編集 東京都立多摩図書館

発行 東京都立多摩図書館

〒190-8543 立川市錦町6-3-1

電話 042-524-6428

ファクシミリ 042-525-9168